

### 【今日の説教から】

私たちは今日、聖書の言葉から、物事のおられるのはどなたであるかを学びたいと思います。

パウロの投獄の中、教会の外からの迫害と共に教会の中からの腐敗もあり、パウロは教会の信徒たちのことを案じ、祈っていました。獄の中、教会を励まし強めたいと思いつつも自由がありません。彼らはどうしているだろうか。揺れ動かされて信仰を失ってしまうのではないだろうか。そして自分のしてきたことが無駄に終わってしまうのではないだろうか。獄の中での彼の悩みには深いものがありました。そこでキリストを見てほしいと、彼は救いの核心について語りました。キリストと同じ気持ちを持って、へりくだり、他者を尊び、自分のことばかりでなく他人のことを考えること。パウロが近くにいなくても、教えられたことに忠実に従うこと。救いの達成まで気を緩めないこと。こう語りながら、彼は天を見上げます。そうだと、彼には再び天からの慰めがあるのです。神こそがまず初めに私たちの心の中に働きかけてくださるお方。神の良き御心の成就のために働くことを願う願いを私たちの心の中に起こしてくださるのは神ご自身。そうであればつぶやかず、疑わず進めるではないか。どんなに曲がった邪悪な時代にあっても、私たちは責められるところなき夜空の星のような存在だ。自分のいのちを捧げるにふさわしいのが神。そして同胞。この道をつき進もうと決意するパウロなのでした。

皆様おはようございます。すっかり秋めいて朝晩は涼しくなりました。お元気にお過ごしでしたか。

「自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう」

新約聖書ルカ 18 章

第102代総理大臣にまもなく就任します石破茂氏は4代目のクリスチャン。曾祖父の金森通倫氏は同志社を作った新島襄から洗礼を受け、後に牧師となった人です。石破氏は高校生時代に鳥取教会で洗礼を受け、東京の教会では教会学校で子供たちのために聖書を教えたそうです。この石破氏が常に心に留めているのが冒頭の聖書の言葉です。

「何が正しくて何が間違っているかということが、人間ごときにわかるのだろうかと思う。今の日本の政治が御心にかなわないものであるならば、どうぞ改めてくださいと祈るような者でありたい」

「信仰を持つことのありがたさは、自分が罪人だということを常に認識できること。いつも、十分の一の献げ物を献げ、自分は正しい者だと言って祈るパリサイ人と、罪人の私をお赦しくださいと胸をたたきながら祈る取税人。どちらが神に義(正しい)とされたかということ常々思い出す。自らが足らざる者、罪人であることを認め、心から神様に赦しをこうことができる。これが信仰のいちばんすばらしいことだと理解している」

「私は、政治とは泣く人と共に泣くこと、国民の思いを体現する党でなければならないと思っている。違う意見に謙虚に耳を傾けるのが保守の本質だと理解している。この国はこれから今までにない選択をしなければならない。そこにおいて、どうか御心が行われるように、塵芥(ちりあくた)のような私でも御用のためにお用いくださいと祈ることを忘れてはならないと思っている」教会は特定の党を支持するものではありませんが、ご活躍を祈ります。

誠にいろいろな思惑の入り乱れる世の中ですが、今日の御言葉の通り、私たちは「曲った邪悪な時代のただ中であって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。」との生き方にお導き頂きたいと深く願います。

2:2 どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになって、わたしの喜びを満たしてほしい。

2:3 何事も党派心や虚栄からするのではなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。

2:4 おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。

2:5 キリスト・イエスにあっただいていてのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。

どんなにか人間の社会において、自分、自分という心、他者を押しつけて自分が第一だという心が周りを乱してきたのでしょうか。しかし私たちはキリストの心に思いをいたし、神様の良き御心と目的のもとへ進むことが救いであり祝福であり、命であることを教えられます。

2:12 わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であったように、わたしが一緒にいる時だけでなく、いない今は、いっそう従順でいて、恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。

「私が一緒にいない今」。これがパウロの悩みであったに違いありません。教会の外からの迫害に加え、教会の中からのわれ先にとのライバル意識によるパウロの成し遂げたものへの取り崩しの働きが、どれほど彼を苦しめたことでしょうか。皆キリストを見つめてほしい。キリストがどのような心で進まれたのか。そして父なる神様はキリストイエス様をどのようにその後死から解放し高く上げられ導かれたのか。パウロは獄中にあり、すぐに駆け付けることもできずに悶々としながらただただ協会のため、信徒のために祈り続けていました。この私の働きが無に帰してしまうのではないかとの恐れを抱きながら、彼はそうならないように、主によって救われたものがキリストから離れてしまうことがないようにと祈り続

けました。

2:12 わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であったように、わたしが一緒にいる時だけでなく、いない今は、いっそう従順でいて、恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。

2:13 あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされる場所だからである。

そこでパウロはまたも主のお慰めによって、測り知れない真理に気づかされるのです。

2:13 あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされる場所だからである。

ああ、唯一無二の神様は、教会の中に働いておられる。私たちのうちに働いておられるんだ。神様はそういうお方だ。御子の血で贖って尊いものとした教会をお見捨てになられる訳がない。神様は見捨てずに、私たちのうちに働いていてくださり、完遂させてくださるんだ。神様の良き御心、良きご目的のために私たちが願い、働くために、私たちも完遂するために神様は働き続けておられる、神様はそういうお方なんだということを、パウロは再び気付かされるのです。

神様は私たちのうちに働いておられます。私たちの教会で、そして私たちの人生の中に神様は働いておられます。

ローマ 8:28 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。

1 コリント 10:13 あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に合わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。

私たちは、いつも私たちの人生に神様が働いてくださっているということを信じているでしょうか。私たちの人生は、私たちの教会は、神様から見放され、廃れるがままになっているなどと考えるはいないでしょうか。いえ、そうではないのです。神様は私たちに働きかけていてくださいます。そして私たちが願うようにしてくださいます。何を願うのか。それは神様の素晴らしい、美しい、良き、善なる御心と目的のために私たちが働くということをお願いするように神様は働いておられるのです。神様は私たちが実現できるようにと導いてお

られます。私たちのうちに良い御心の実現されるようにと神様は私たちのうちに働きかけていてくださる。ずっとそうしていてくださり、そのことにより私たちを守っていてくださるのです。

パウロは牢獄の中、悩み苦しみと心配に苛まれ、ついに神様は私たちのうちに働いておられるとの確信に至りました。それは喜ばしい確信でした。人は自分のためだけでなく、引きずられて墮落していくばかりではなく、主にあって良きご意志を行い、かつ神様は実現させてくださるとの確信に至ったのです。

2:14 すべてのことを、つぶやかず疑わないでください。

私たちのうちに確信が薄れる時、不安に駆られて私たちにはつぶやきや疑いが生じます。しかし私たちの中に働きかけるお方を見つめましょう。

2:15 それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪な時代のただ中であって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。

「それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪な時代のただ中であって、傷のない神の子となるため」

光の子を責めよう、墮落させよう、確信を失わせよう、輝きを失わせ、失敗させようとする画策の、どんなに多いことでしょうか。曲がった邪悪な時代。それは不正な、インチキの、詐欺の、本来はまっすぐだったのに曲がって湾曲した、ゆがんだ、不正直な、つむじ曲がりの、ひねくれた、道理をわきまえない、正道を外れた、邪悪な、非を認めない、頑迷な、強情な時代を意味します。そういう風に足を引っ張る時代の中で責められることなく、誤りなく、正直で悪だくみなく、率直で純粋に生きることは難しいことでしょう。しかしそこに向かって神様は良きご意志をもって働きかけて守り導き、信じる者たちをその時代の只中であって傷のない者とし、世界の星として輝かせ、いのちの言葉をしっかりと握っているのです。それが私たちという存在なのです。どうして太陽とは言わずに星というのか。それは世界が暗闇の中にあるからなのでしょう。しかし漆黒の暗闇の中にも空の星があり、きらめきがあり、幸せと喜びの輝きがあるのです。

2:16 このようにして、キリストの日に、わたしは自分の走ったことがむだでなく、労したこともむだではなかったと誇ることができる。

自分の懸命に走ってきたことが無駄だったのではないか。この信仰の道に進んで一生懸命に労したことだことは全て空っぽの、意味のない徒労ことだったのではないのか。こうささやきかける心がありました。しかしそうではない。キリストの日。キリストがお帰りになるその日。この世界の主人が誰であるのかがはっきりするその日。すべては知ったことは無駄ではなく、労したことが無駄ではなかったことが明白になるのです。

2:17 そして、たとい、あなたがたの信仰の供え物をささげる祭壇に、わたしの血をそそぐことがあっても、わたしは喜ぼう。あなたがた一同と共に喜ぼう。

2:18 同じように、あなたがたも喜びなさい。わたしと共に喜びなさい。

もはやこの光栄の現れる日のために、私は寸分も迷わずに向かおう。自分の身がたとえ祭壇に捧げられる血の捧げものとなり、命を注ぎだしたとしても、私は本望だ。私はこのイエス様のためならば命を捧げられるし、愛する教会と、その群れのためにも命を捨てることが出来る。それに値する教えであることが分かる。喜びをもって、死にさえも進むことが出来る。そこにイエス様がおられるから。そこまでして愛して下さった方がそこにはおられるから。私も喜んでそこに赴く。どうか皆さんもそんな私と共に喜んでください。そして、迫害の中にも、暗闇の試練にも恐れなくて欲しい。この神様があなた方の中に働いてくださっているから。

私たちがまた、困難にめげず、この労苦が無駄になることはない信じ、すべての労苦が報われることを信じて、輝きを放つためにますます主の愛に生きる者でありたいと願います。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。先行きに心配と不安があり、試練と苦難の影が付きまとう中、私たちがどこに目を向けるべきかをお教えくださいます。ありがとうございます。私たちがどんなときにも目を向けるべきは、私たちのうちに働いていてくださる神様。神様は良きご意志と良き目的を持っておられ、私たちのうちに働きかけてくださり、良きみ旨のために私たちが働くことを願うようにし

ていてくださいます。道を外れず、祝福といのちの中を進めるように導いていてくださいます。私たちの努力は無駄にならず、暗闇の中でも輝かせ、私たちを夜空の星としてくださいます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン